

生体マルチセンシングシステムの究明と活用
技術の創出

2022 年度採択研究代表者

2022 年度
年次報告書

平田 豊

中部大学 工学部
教授

空間識の幾何による重力覚解明と感覚拡張世界創出

主たる共同研究者:

荒井 迅 (中部大学 創発学術院 教授)

川合 伸幸 (名古屋大学 大学院情報学研究科 教授)

研究成果の概要

プロジェクト初年度であった 2022 年度は、まず、各グループ(G)における研究課題を実施するための人的・物的環境整備を進めた。これにより、博士研究員 2 名、技術補佐員 2 名がチームに加わり、次年度に必要となる実験装置導入の目処もたち、本格研究を開始するための環境が順調に整っている。また、G 長(PIとCo-PIs)会議の他、チーム全体会議を 2 回開催し(第1回 11 月 28 日 @中部大+zoom, 第 2 回 1 月 30 日 @滋賀大+zoom), グループ間の連携を強化した。特に、神経生理 G 内において、工学系の博士研究員(中部大)が生物系研究室(基生研)に出向き、若手インターンシップにより異分野研究への展開を開始した。同様に、心理 G と神経生理 G の若手研究協力者が交流を深め、本領域において募集された「若手チャレンジ研究」に共同で申請し、採択された。また、関連分野の研究者を招いた「空間識の幾何セミナー」を 4 回開催し(第 1 回 10 月 11 日, 第 2 回 10 月 26 日, 第 3 回 12 月 5 日, 第 4 回 3 月 7 日。全て@中部大+zoom), チーム内の議論を活性化させた。年度末には、国内外の代表的な空間識研究者を集めた公開シンポジウムを開催した(3 月 16 日 @中部大+zoom)。これをきっかけに、本プロジェクトが関係分野の研究者に認知され、参加者間の研究交流が始まるなど、空間識の幾何研究の推進に寄与するものとなった。このほか、本プロジェクトのウェブサイトを開設し(<https://www.crest-sog.org>), 活動状況のタイムリーな公開を開始したほか、関連学会論文誌(日本航空宇宙学会誌)に掲載された解説論文や、関連研究会(Motor Control 研究会)交流サイトでのプロジェクト紹介記事を通し、本プロジェクトを研究者コミュニティに周知した。その結果、複数の企業が本プロジェクトへの参画を希望し、共同研究に向けた検討を開始した。